

2020年度 大阪府高校放送コンテスト 決勝大会 アナウンス部門 審査結果及び講評

審査順	学校名	名前	得点 /500	講評
1	成美	藤村	入選	話すイントネーションではない。自然に話すアナウンスを追究しよう。かたまりで伝えるとよくなる。うねりやアクセントにも注意する。
2	プール	辻野	5位	明るく良い声が出ていた。音の幅も取れているが、まだまだ「読んでいる」アナウンスである。文章表現も練ってみよう。
3	相愛	神館	2位	題材がおもしろい。間の取り方や意味の固まりを掴もうとする様子が伝わってきた。文末がもっと落ちたらなお良かった。「話すアナウンス」に近かった。
4	池田	柴田	入選	題材はおもしろいが、「読んでいるアナウンス」になっていたのがもったいない。声の幅が少なく、早口になってしまっていたのが今後の課題。
5	箕面	大出	入選	伝えたい内容が何かを意識してみよう。棒読み聞こえてしまうため、声の幅を広げる、文の切り方を考えるなどの工夫をしよう。
6	プール	岡田	1位	話すアナウンスに近く、内容も面白い。速く感じられる部分もあったので気を付けよう。声幅や間の取り方はしっかり工夫されている。
7	相愛	安田	入選	面白い題材で、もっと掘り下げてほしい。「話すようにアナウンスする」ことが今後の課題。リスナーに語り掛ける、音の高低を考えるなど工夫してみよう。
8	夕陽学	坂本	6位	聞きやすい声だった。内容としては、原稿の核(伝えたい内容)が必要。単調に聞こえるため、声の幅を広げる、間を取るなどしてみよう。
9	桜塚	高橋	3位	「伝えようとする」気持ちのこもった、明るく好感の持てるアナウンスだった。力みが残ったので、もう少し自然な息遣いならよかった。
10	四天	瀬戸	4位	内容のよく伝わるアナウンスだった。速く、全体的に単調に聞こえたので、リスナーに伝えるペースや緩急に注意を払ってみよう。
11	帝塚山	小鍛治	入選	伝えたいところが急に強くなったのが気になった。もう少し高いところから始める、間の取り方を工夫する、滑舌に気を付けるなどといった点に注意してやってみよう。